

市民意見募集の結果を踏まえた「答申案」の修正について

1 市民意見募集の結果を踏まえ、以下の点を修正したいと考えております。

(1) レジリエンスの観点について、本構想に取り入れるため、関連する各種計画（P2）に「京都市レジリエンス戦略」を記載するとともに、「V 構想実現に向けて」の「2 多様な主体の連携によるまちづくり」（P28）に以下のとおり追記します。

各方策の推進に当たり、行政のみならず、市民、地域、大学、事業者など、様々な主体が携わることにより、例えば、空き家への対策において、空き家の活用が、地域の防災・防犯の向上や、若者の定住促進とまちづくりの担い手育成、さらには若手芸術家の創造環境づくりにもつながっていくなど、本エリアのレジリエンス（危機にしなやかに対応し、持続・発展する力）が高まるとともに、活性化に大きな効果が期待できます。

(2) SDGs（持続可能な開発目標）の観点について、本構想に取り入れるため、「2 構想策定の基本的事項」の「③策定に当たっての基本的な考え方」（P3）に以下のとおり追記します。

考慮する視点：SDGs（持続可能な開発目標）

SDGsとは、人権、格差是正、環境、平和などの観点から、持続可能な社会の実現を国際社会全体で目指す17の普遍的なゴール（目標）であり、平成27年（2015年）9月、国連において採択されました。

SDGsの中には、京都市立芸術大学の移転などを契機として、文化芸術によるまちづくりを進めようとする本構想の策定に当たり、例えば、ゴール④「すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」ことやゴール⑪「都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靭かつ持続可能にする」ことなど、重要な視点が含まれています。

これらを踏まえ、本エリアの活性化に取り組むことにより、京都ならではのSDGsの実現に寄与します。

(3) 方策2において、文化芸術と観光をはじめとする関連分野とを連携させることにより、経済的な価値を創出し、持続的な文化芸術の発展と経済成長の好循環を生み出すこととしていることから、推進項目⑫「文化芸術に関するイノベーションの創出や伝統産業の振興」(P22)に以下のとおり追記します。

文化芸術と産業技術の研究機能を融合することにより、新たな技術や商品を開発し、これらに触れ、購入できるようにするなど、文化芸術に関するイノベーションや伝統産業の振興を促進します。

(4) 本エリアにおける文化芸術の振興の推進にあたっては、芸術系大学と、東・西本願寺など、寺社との連携も重要であることから、方策3の推進項目⑩「芸術系大学と施設の連携による文化芸術の振興」(P26)に以下のとおり追記します。

芸術系大学と文化芸術関連施設や寺社等が連携し、文化芸術の振興を推進します。

(5) 京都駅東部エリアにふさわしい施設の誘導に当たっては、「新たな価値を生み出す創造・発信拠点」の誘致など、隣接する京都駅東南部エリアの取組との連動が重要であることから、方策3の推進項目⑪「京都駅東部エリアにふさわしい施設の誘導」(P27)に以下のとおり追記します。

こうした位置付けを踏まえ、「日本の文化芸術を牽引し、世界の人々を魅了する創造環境の整備」に資する「新たな価値を生み出す創造・発信拠点」の誘致など、「京都駅東南部エリア」の取組と連動させながら、本エリアにふさわしい施設の誘導を検討します。

(6) 本エリア内の方に限らず、エリア外の方にも、本エリアの活性化に取り組んでいただけるよう、「構想実現に向けて」の「1 多様な主体による将来ビジョンの共有」(P28)に以下のとおり追記・修正します。

構想の実現に向けて、本エリアの市民、地域、大学、事業者など、様々な、多くの主体が、構想に示されたまちの将来像を共有し、今後、本エリアの周辺も含めて大きく変容するまちの姿をイメージしながら、共に活性化に取り組みます。

- (7) 芸術系大学の学生や若手芸術家の方の文化芸術活動を支援することを明記するため、「V 構想実現に向けて」の「3 構想実現に向けたプロセス」(P28)に以下のとおり追記します。

芸術系大学の学生や若手芸術家、若きクリエイターなど、多様な担い手が、身近な場所において、文化芸術活動や文化芸術とまちづくりを融合させた創造的な活動を行うことができるよう、地域や芸術系大学、事業者、行政等は協力してこれらの活動やその環境づくりを支援します。

- (8) 写真と将来のまちのイメージ図を追加し、冊子の見やすさの向上を図ります。